

1 文(文章)で解答する設問の答案については、次のA項の加点要素の合計から次のB項・C項の減点要素の合計を引いた得点をその設問の得点とします。ただし最低点は0点としマイナスの得点はつけません。

A

a 以下の採点基準では、模範解答をいくつかの要素に分割し加点要素とします。答案中にその加点要素に相当する部分があれば、その加点要素に配点された得点を与えます。

b ある加点要素は、その加点要素に配点された得点か0点で採点することを原則とします。たとえば5点配点された加点要素であれば5点か0点で採点することを原則とします。

ただし、その加点要素中の部分点を認める場合もあります。その場合それぞれの採点基準の中に明記されています。

c ある要素に加点するか否かが、他の要素と無関係に決まる場合と、他の要素との関係で決まる場合があります。前者の場合は、その要素を単独採点(独立採点)すると言いその旨必ず明記されています。後者の場合は、他の要素との関係について以下の採点基準で具体的に指示されています。

d **解答通り**という条件がある場合はいかなる部分点も認めません。

B

a 答案中に大きな誤読と判定される内容(語句)などがある場合は、その内容(語句)を減点要素として示されている場合もあります。

b 加点要素でも減点要素でもない部分もあります。その部分は加点も減点もしません。

C

次に該当するものは、答案の形式上の不備として、一箇所につき1点の減点要素とします。

a 誤字。漢字などの文字の明らかな誤りは誤字とします。

b 脱字。

c 文末の句点の脱落。

*字数指定のない場合、句点の脱落は誤字とし1点の減点とします。

d その他不適切と判断せざるをえない箇所。

e 不適切な文末処理。設問の問い方に対応していない形で答案の文末を結んでいない場合は、適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備による減点要素とします。

たとえば「:とはどういうことか?」という問いに体言で結んでいないものなどは適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備とします。

また、理由が問われているのに、「から」「ので」などで結んでいないものなども適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備と見ます。

*ただし、「ことである」などの表現も「こと」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また、「からである。」などの表現も「から」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。

また文末の表現を問わない場合もありますが、その場合はその都度明記されています。

2 日本語の表現として不適切なものは程度に応じて減点します。

3 次の各項に該当するものは、部分点の要素があっても、その設問の得点を0点とします。

a 答案が解答欄の欄外にはみ出しているもの。

b 一行の解答欄に二行以上書いた場合もその設問の得点を0点とします。

c 字数指定のある設問で、字数をオーバーしたもの。

d 答案の文章が最後まで完結していないもの。

4 **古文あるいは漢文の訳を記述する設問**の場合も以上に準じますが、文末の句点や文末の処理あるいは答案の完結にこだわらなくともよい場合はその都度明記されています。

問一 1 前提 2 分裂 3 微細 4 真剣 5 訴訟 (2点×5)

問二 a ハ b ロ c ハ (3点×3)

問三 ひとつはひとつの完結した全体として捉えられるものではなく、自分のことですら全体として理解できないのに、まして他人の全体はなおさら理解することなどできないから。(78字)(9点)

A. ひとつはひとつの完結した全体として捉えられるものではなく、 [3点]

※主語の「ひとつは」が入っていない場合は、2点減点でAは1点。

B. 自分のことですら全体として理解できないのに、 [3点]

※「すら」「さえ」などの類推表現がない場合は1点減、B2点。

C. まして他人の全体はなおさら理解することなどできない(から)。([3点]

※「まして」という抑揚表現がない場合は1点減、C2点。

※4段落11行目「自己のことであれ他者のことであれ、分からないこと、理解不能な部分のほうがるかに多い」の部分を使用している答案は、(Aでさえ……、ましてBはなおさらだ。)の形を取っていないので、2点減でBCを合わせて4点。

問四 ホ (4点)

問五 イ (5点)

問六 彼女の恐怖がどういうものかよく分からないが、そばに付き添うことにより、なんとか分かるとうとする姿勢を示していると思うから。(60字) (8点)

A. 彼女の恐怖がどういうものかよく分からないが、 [3点]

※「彼女の」「妻の」がない場合はA無得点。

B. そばに付き添うことにより、 [2点]

※「その場を立ち去らず」「付き合う」も可とする。

C. なんとか分かるとうとする姿勢を示していると思う(から)。([3点]

※「思う(から)」、あるいはそれに類する表現がなかった場合、1点減、C2点。

問七 ニ (5点)

□ 現代文 小説 (50点)

問一 各3点×3＝9点

a＝二

b＝八

c＝口

問二 4点

ハ

問三 9点

【模範解答例】

不意に現れた見知らぬ娘の存在と、

(A 2点)

その娘の手にしていた杯の奇妙さに

(B 2点)

驚き、

(C 2点)

言葉を失っている様子。

(D 3点)

【採点のポイント】

※A、BはCあるいはDと結びついている場合のみ点数を与える。「AまたはB」のみ、あるいは「AかつB」のみの答案には(設問で問われている「七人の娘たちの様子」ではないので)点数を与えない。

※A、Bは両方書かれていなくても部分点を与える。(A+C+D＝7点、A+C＝4点、A+D＝5点。B+C+D＝7点、B+C＝4点。B+D＝5点)

A 「不意に現れた見知らぬ娘の存在と、」(2点)

※Cの理由①である。

△ 「平和の破壊者」という比喻表現をそのまま用いている場合、1点。

△ 「不意に現れた」というニュアンス(平和な状況を破るニュアンス)が入っていない場合、1点。

○ 「第八の娘の突然の登場と、」などでも可。

○ 「突然現れた娘の容姿と」も可。

B 「その娘の手にしていた杯の奇妙さに」(2点)

※Cの理由②である

○ 「その琥珀いろの手に持っている、黒ずんだ、小さい杯を見て」という本文の表現をそのまま用いた解答も可とする(ただし、その場合、字数がかさむため、他の要素が入らなくなる)。

△ 「杯」についての説明がない解答は、1点。

「杯」にかかる修飾語として「その娘の手にしていた」というニュアンスが無い場合、1点。

C 「驚き、」(2点)

※Dの理由である。

○ 「くが思い掛けない事だったので」といった表現でも可。

D 「言葉を失っている様子。」(3点)

※設問で要求されていることに対する直接的な答えの部分である。賑やかなおしゃべりの一時的な中断、つまり人間の声(音)が一時的に止んでいる様子を答える。

○ 「言葉(詞)を失っている。」のように、文末が「様子。」で終わっていなくても、内容的に娘たちの様子を表している場合、3点。

○ 「言葉が出てこない様子。」や「絶句している様子。」「何も言えなくなっている様子。」も可。

○△ 「言葉(詞)がない様子。」は、前の部分とのつながりがおかしくなければ可。おかしければ1点。

△ 「呆然としている様子。」は直接的には「音が無い」という意味にならないので2点。

× 「緊張している様子。」や「第八の娘が何を言うのか待っている様子。」は不可。

× 「ただ蟬の声に耳を澄ませている様子。」も不可。

問四 6点

二

問五 6点

【模範解答例】 自分は自分の杯で (A 3点)

水を飲みたいという意志。 (B 3点)

【採点のポイント】

※本文の「わたくしの杯は大きくはございません。それでもわたくしはわたくしの杯で戴きます」という内容(38字)を字数内(20字以内)でまとめられていればよい。

A 「自分は自分の杯で」(3点)

○ 「自分の杯で」も可。

○ 「自分の小さい杯で」も可。

B 「水を飲みたいという意志。」(3点)

○ 「水を飲むために自分の杯」を使いたいという意志。」も可。また、「水を飲む」という意味になっていれば、たとえば「喉を潤す」などの表現も可。

○ 「〜したいという意志。」ではなくても、「水を飲むという意志」や「〜を使うという意志。」も可。たとえば「他人ではなく自分の杯を使うという意志。」は6点。

○ 「水を飲む意志」は可。

△ 「水を飲みたい意志」は日本語がおかしいので1点。

△ 文末が「意志。」で終わっていない場合、2点。(たとえば「自分の杯で泉の水を飲みたいというもの。」は5点。

問六 6点

ロ

問七 10点

【模範解答例】 人に何と言われようと、 (A 3点)

人真似ではない、自分に与えられた自分の道を (B 3点)

毅然として進んでいくこと (C 4点)

【別解】 多数派の価値観に迎合することなく、 (A 3点)

自分の価値観に (B 3点)

誇りを持ち、それを大切にすること (C 4点)

【構造点】

× 「〜が大切だ」という表現につながらない解答の場合、点数は0点。

【採点のポイント】

※「わたくしの杯は大きくはございません。それでもわたくしはわたくしの杯で戴きます」という本文中の表現を、具体的なコンテクストから切り離れた抽象的、一般的な表現に言い換える問題である。

※「自分に与えられたものが他人や世間の評価基準からすれば見劣りするものであったとしても（A）、自分はこの自分に与えられたものに（B）誇りをもって生きていくこと（C）」といった内容になっていけばよい。
※本文中の言葉を用いて答えるタイプの問題ではないので、表現上の許容範囲は広くとる。

A 「人に何と言われようとも、」（3点）

※「他人や世間の価値観を気にせずに」というニュアンスが出ていけばよい。

×「たとえ小さな杯だとしても」といった具体的な表現は不可。

B 「人真似ではない、自分に与えられた自分の道を」（3点）

※「自分に与えられたもの」を抽象的に表現できていればよい。

○「自分の性質」「自分の能力」「自分の生き方」「自分の意志」などは可。

×具体的な(物質的な)「持ち物」は不可。たとえば「杯」、「所有物」などは不可。

C 「毅然として進んでいくこと」（4点）

※「自信をもって」、「誇りを持ち」「堂々と」「自分の意志を」貫く」「邁進」といったニュアンスが必要である。

×「くが大切だ」という表現につながる形で答えなければならないので、句点を打っている解答は1点減点。

第三問

問一 (1) もののけ (2) え (3) ゐ (4) そぢごと (各②点)

問二 ① ア役に立た イないだろう (④点)

ア—②点 「役に立つ、甲斐・効き目・効果・御利益・意味がある」で②点
イ—②点 打消推量「くないだろう・くまい」で②点。 打消「ない」は×

② 持っていてもア仕方がない (④点)

ア—④点 (持っ^ていても)「仕方ない・意味がない・無駄だ」
(持っ^ている)「意味がない・理由がない」で④点。
「つまらない・方法がない」は文脈に不適切×

③ アそつと イ見ると (④点)

ア—②点。「そつと・静かに」
×「おもむろに」は不可。
イ—②点。偶然条件「見ると・見たところ」 ×見れば・見るならば

問三 ㉑ ロ ㉒ イ ㉓ ハ (各②点)

問四 ニ (⑥点)

問五 アいつも通る道に イ弓矢や武器を持ったウ盗人たちがいること (⑥点)

ア—②点。普段通る道・いつもの道 など狐に案内されなければ通ったであろう道であることがわかれば可。「男の通ろうとした道」は可。
イ—②点。危害を加えそうな装備であること。
ウ—②点。盗人がいること。

問六 ハ (⑥点)

問七 ホ (⑥点)

四 (漢文) 採点基準 (合計 50 点)

- 問一
- ① a かつ・かつて・かつ (テ) (3 点)
 - ② b たちま・たちまち・たちま (チ) (3 点)
 - ③ c のみ・のみと・のみ (ト) (3 点)
 - ④ d ゆえ・ゆえに・ゆえ (ニ) (3 点)

※送り仮名の扱いは、設問に言及がないので不問とし、右記のいずれの解答も正解とする。
※①「かつて」は、「かつて」でも〇とする。
※④「ゆゑに」と歴史的かなづかいにしているものは△2点減点。

問二

- A a 1 点 b 1 点 c 3 点
父が 同郷の人間に 殺された。 (5 点)

a 「父が」は主語 (1 点)
※「父を」のように目的語にしているものは減点 1 点

b 「郷人」の訳 (1 点)
※(注)があるので、「同郷の人」でも「村人」でもよい。
※「郷人」「故郷の人」などは減点 1 点。

c 「くする所と為る」の受身形の訳 (3 点)
※「殺された」意味になっていれば可。

- E a 2 点 b 3 点
おまえは 何者か (5 点)

a 「汝は」の訳 (2 点)
※目下に対する二人称の訳「おまえ・そなた・そのほう」
※「あなた」は減点 1 点。

b 「何人(なんびと)たるか」の訳 (3 点)
※「何者か(何物だ)」「誰だ」「何者であるか」など。
※「何人(なんにん)」の意にとっているものは×。
※「為」を「ため」など、断定の「たり」にとっていないものは×。

問三 又 為 州 郡 論 救、 遂 得 無 他

※前半 a 3 点、後半 b 3 点の配点とする。a が間違っているとしても、b が合っていれば b の 3 点は与える。
※送り仮名をつけているものは×。

a 4点

問四 長官の馬が落とし穴に落ちないようにして、

b 4点

息子の命を救ってくれた恩返しをするため。(8点)

a 「長官の馬が落とし穴に落ちるのを防ぐため」の要素(4点)

※「草中の」「鹿を追った」「走る方向を変える」など、文中にある具体的な要素があってもよいが、間違ったことが入っていれば減点。

※「長官」は「令」「官長」でも可。

※「長官の」「馬が」「(草中の)落とし穴に」「落ちないように」の、どの要素も欠けていれば減点2点。

b 「恩返しをするため」の要素(4点)

※何の「恩返し」かの要素が2点、「恩返しをするため」の要素が2点で合計4点。

「恩返し」は「感謝の気持ちを伝えるため」も可。

a 2点

b 4点

問五 ゆみをひきて まさにこれをいんとす (6点)

※bが×でも、aが○であればa 2点は与える。

※漢字が混じっているものは×。

a 「ゆみをひきて」(2点)

※「ゆみをひき」「ゆみをひいて」でも○。

b 「まさにこれをいんとす」(4点)

※「まさに……んとす」の再読文字「将」の読みがポイント

※「いむとす」でも○。

※「いんとする」「ゐんとす」は×。

問六 ハ (8点)